

諸家系譜

中川

大正官文庫  
和書門  
三三九  
二三九  
冊數 函號 類

內閣文庫  
和書  
三三九  
二三九  
冊數 函號 類

內閣文庫		
番號	和	32649
冊數	225 (166)	
函號	156	23

共二百五十九

共八十五



子  
源  
系

百

事  
子  
子  
子

事  
百  
子  
子  
子

清  
中  
子  
子

為事性

中川氏

及在信之信或名廢了與代是信也  
信人進言美法兼始与長中川  
法兼六代紙中与代信度胤

簾之紋

細梅松竹

幕之紋

細梅松竹

紗之紋

五右衛門

襷之紋

七右衛門

中川信兼大首通領

為重

母 水部少輔

妻 子知

及又下三三三三三三三三三三三三

控調極は 中川信兼大首通領

水部少輔 中川信兼大首通領

中川信兼大首通領

中川信兼大首通領

中川信兼大首通領

少少の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...

少少の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...  
此の事は... 此の事は... 此の事は...



大坂

高き

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

後醍醐天皇

大坂御文中川市を為す大坂

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂

市部

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

後醍醐天皇

大坂御文中川市を為す大坂

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂

市部

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす

大坂

大坂の地味を大坂より中川の如く大坂  
ありて是を道に用ひて之を大坂とす



以之... 江戶... 新設... 少... 御

清國見... 新設... 以之... 御

津波

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波

津波

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波の自修却之節

津波

津波の自修却之節

かまのあひら  
 乃ほらあし  
 一  
 乃のまのこら  
 あしほらあし

沖持麻子

二

菊沖着綿

法蓮長巻 二

鶴沖法蓮

一

沖持蓮

一

沖持冊

法蓮長巻 沖持冊  
 法蓮長巻 沖持冊

沖持冊

石目乃 巻取

徒

乃能後原の洞系

雲芝

一

石目乃 巻取

大雄

母

久美

乃能

乃能長巻 乃能母  
 乃能長巻 乃能母



百治二己亥年二月十日

行年也到六 巳年二月十日

英丸山山所守治者後高後日常

後書

百治後高後日常

百治後高後日常

高治九月甲辰年二月十日

高治後高後日常

孝百後極清式也之巳年二月十日

計月見江

百治二己亥年二月十日

百治二己亥年二月十日

行年也到六 巳年二月十日

英丸山山所守治者後高後日常

高治九月甲辰年二月十日

高治後高後日常

計月見江

百治二己亥年二月十日

百治二己亥年二月十日

百治二己亥年二月十日

百治二己亥年二月十日

引三... 河内... 河内... 河内...

世... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

河内... 河内... 河内...

書もよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる  
ものもよみぬるもの好まざる

いふことありあり  
いふことありあり

いふことありあり  
いふことありあり

常憲侯様清江三郎元 辛酉年丁酉月

いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり  
いふことありあり

今之好尚は江ノ川に在りしより一のり御座  
御座り候

自寛永之西宮年より一のり御座り候

一のり御座り候

喜多御座り候

一のり御座り候

一のり御座り候

一のり御座り候

一のり御座り候

一のり御座り候

以上各五年より一のり御座り候

以上各五年より一のり御座り候

以上各五年より一のり御座り候

以上各五年より一のり御座り候

以上各五年より一のり御座り候



予の書は凡そ十年に一度に一回の  
 日々に書き進みしるる事ありけり  
 其の書は凡そ十年に一度に一回の  
 日々に書き進みしるる事ありけり  
 其の書は凡そ十年に一度に一回の  
 日々に書き進みしるる事ありけり  
 其の書は凡そ十年に一度に一回の  
 日々に書き進みしるる事ありけり

女子

母

左桑

石洋

以上は後漢の事也  
 昔は漢の定遠侯

以上は後漢の事也  
 昔は漢の定遠侯

其の書は凡そ十年に一度に一回の  
 日々に書き進みしるる事ありけり  
 其の書は凡そ十年に一度に一回の  
 日々に書き進みしるる事ありけり

教志



母  
書  
長子  
大君

實中書省臣...  
以爲母

夏之入...  
知書

常憲度...  
自書

馬代...  
書

津國...  
江

元...  
年

正...  
年

河...  
文

後...  
文

上...  
文

江...  
文

江...  
文

水島好雄河内守... 宗恒

宗恒

宗恒

宗恒

宗恒... 宗恒

宗恒

宗恒

宗恒... 宗恒

大易

却三節 九之節 或約

吉母

火金成

美文

三田中書乃 聖法修乃

美母

東家平之 法根良胤女

先書

而後之 官年 七和母

高深又 度四年 一子 一子 海池

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

美書

海池 山宮 源七年 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子 一子

三徳之巻之五年に於て一書を成す

百徳後存神代書御記と云ふ年より一書を成す

又御書之巻之五年に於て一書を成す

御書之巻

三十七万五千七百七十九文に成す

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

一と云ふの巻に成す

之より一書を成す一書を成す一書を成す

一書を成す一書を成す一書を成す

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻

御書之巻御書之巻御書之巻



延慶三年申年十一月廿二日  
 流痛の事初日より即ち有願也  
 此中より西尾段後より後  
 今之教り願也  
 口力百平年より一平  
 蒙之意申事申年より初日  
 此中より初日より初日  
 唯此中より初日  
 清國見也

此中より初日より初日  
 清國見也

此中より初日より初日  
 清國見也

女子 早世  
 女子 早世  
 女子 早世



中川勘吉 早世

母 卯女

寛文十三年三月廿一日

卯女 卯女 卯女 卯女 卯女

卯女 卯女 卯女 卯女 卯女

女子 卯女 卯女 卯女 卯女

母 卯女

中川勘吉 早世

母 卯女

寛文十三年三月廿一日  
卯女 卯女 卯女 卯女 卯女  
卯女 卯女 卯女 卯女 卯女

女子 早世

母

中川勘吉 早世

母 卯女

寛文十三年三月廿一日  
卯女 卯女 卯女 卯女 卯女  
卯女 卯女 卯女 卯女 卯女

中川勘吉 早世

母 二回

寛政十三年申年四月廿九日甲戌年二月  
九日申辰時辰刻不問所居位極後  
五十二歳

忠實

高年一 娘長年常 午申年 三十三歳

母

之書 子我母長子物女云母

昭和二十五年二月九日海軍省 経年

寛政十三年申年四月廿九日甲戌年二月九日  
申辰時辰刻不問所居位極後五十二歳  
清書 母長年常 午申年 三十三歳  
高年一 娘長年常 午申年 三十三歳  
子我母長子物女云母  
昭和二十五年二月九日海軍省 経年

清の歴史 清の歴史 清の歴史

三才賦 清の歴史

清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史 清の歴史

南洋

南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史 南洋の歴史





日年之... 多... 折... 親  
 此... 心... 多...  
 一... 於... 不  
 若... 後...  
 自... 於...  
 新... 免...  
 以... 多... 於...  
 之... 海  
 日... 年... 中...

或... 押... 入... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 以... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...  
 之... 終... 終... 終...



之得書... 行... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...

... 行...



江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に

江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に  
江戸参府の御用金に於て御用金に

水物名新嘉坡多酒松手鐵也  
之江州河川之海運之海河  
一石之河川之海運之海河  
松手鐵也之海河

河川之海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河

海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河  
海運之海河







書狀成り此の如く也付て  
御事終る海に上る日年之了  
ハ能くも是より成り  
以て由り成り終る後  
計開之紅令也投時後之如  
而此終る日年之了  
修名之向し向し存成り  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了

石之り  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了  
以て終る日年之了

予一也、御所江、  
 清國、  
 尾、  
 芳、  
 西、  
 終、  
 之、  
 一、

中門 八 早世  
 母 某氏

一、  
 日、  
 其、

女子

早世

一、  
 一、  
 一、

女子 早世



如 夕夜成

昔水牛... 昔年... 昔... 昔...

... 昔... 昔... 昔... 昔...

... 昔... 昔... 昔... 昔...

大將

中門内記 始... 始...

言文

... 始... 始... 始... 始...

言文

言文

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

... 始... 始... 始... 始...

井原よりお梅へ 海客よりお梅へ

御三拜 梅の三拜

梅の三拜

大直

書母

お梅氏

美文

川原附よりお梅へ

書母

川原よりお梅へ

書

美文 大直よりお梅へ

美文 大直よりお梅へ 御三拜

美文 大直よりお梅へ 御三拜

美文 大直よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

お梅よりお梅へ 御三拜

是 而此...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

吉良女

中門...  
...

吉良

...

吉良

...

吉良

...

...

...

吉良女

...

吉良

...

吉良

...

吉良

...

...

日向堂  
心術

日向堂  
日向堂

中川

喜母  
喜母氏

美母  
美母

日向堂

男子  
道

女子  
美母

日向堂  
日向堂

女子

喜母

美母

日向堂

女子

喜母  
中川氏

日向堂

女子  
日向堂



東照宮様 清業

西の<sup>方</sup>に<sup>て</sup>清業<sup>の</sup>字<sup>は</sup>未<sup>だ</sup>知<sup>ら</sup>ず

清業頼

高平石  
徳川  
氏

中川  
氏

中川氏

清業<sup>の</sup>字<sup>は</sup>未<sup>だ</sup>知<sup>ら</sup>ず  
徳川<sup>氏</sup>  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏

右紙尾紙

浄筆

此奇ありてききり月よりを  
よめり

誠和

山崎のなみ秋新さむりて  
うらたけくひりきり八海海  
海とけりきりきりきりきり  
ゆきに水原きりきりきり  
なみりきりきり

みりきりきりきりきり  
はのりきりきりきりきり  
而角きりきりきりきり

左紙尾紙

浄筆

なみりきりきりきり  
はのりきりきりきり  
而角きりきりきり  
なみりきりきり  
はのりきりきり  
而角きりきり

乙殿後杯

津画

杉葉麻

麦方後杯

津葉

あふふたふらふら  
まよひまよひたふら

ふん

ち

右邊草

乙殿後杯

津画

酒屋天神名物

一幅

かゝ衣とて少中流

神

梅

り  
れ

山崎の如くは、此の類多し。一且、市中  
流産に有之。及、此の如く、此の如く  
市中、種種、此の如く、此の如く  
市中、種種、此の如く、此の如く  
市中、種種、此の如く、此の如く

中川之如く  
山崎の如く

山崎

山崎の如く  
山崎の如く

な  
山崎の如く

山崎  
中川之如く



信紙手紙

中川

先般東京川口常事の用紙に在りては紙料  
の都合に依りて南川と稱する者ありしに中川と改

紙

白紙

紙

白紙

紙

白紙

中川公書射書

書房

中川公書射書

書房

書

書

書

信紙手紙

信紙

中川公書射書

書

書

美源八五ノ書

信紙手紙

信紙手紙

信紙手紙

信紙手紙

信紙手紙

信紙手紙

信紙手紙



後世の傳はれし事ありしは  
日本文字の傳はれし事ありしは  
或る年々ニテ一ノ事

神皇正統記の傳はれし事ありしは  
其の事ありしは  
或る年々ニテ一ノ事

神皇正統記の傳はれし事ありしは  
其の事ありしは  
或る年々ニテ一ノ事

神皇正統記の傳はれし事ありしは  
其の事ありしは  
或る年々ニテ一ノ事

神皇正統記の傳はれし事ありしは  
其の事ありしは  
或る年々ニテ一ノ事

三月七年卯子力... 海井國備... 此... 應... 切... 後... 亥... 亥... 亥... 亥...

英國白書

長利 中川岩物

母 秋藤氏

書久子... 氏... 乙... 乙...

母... 長... 亥...

長秀

母 白

母... 白

母 白

母... 白

母 白

母... 白

母 白

母... 白

母 白



水政 申川文之舞

世 松澤氏廿

書 松澤氏廿

松澤氏廿

寛政九年十一月...

...

...

...

...

...

...

寛政九年十一月... 松澤氏廿... 申川文之舞... 水政...





な  
津  
初

百  
後

事  
之  
初  
津  
初

津  
初  
津  
初  
津  
初

津  
初  
津  
初  
津  
初

津和野氏

中川氏

先相済方如衆如和言日中右山屋同治公  
和申川右女海平公

春一皮 九月三日撰

利向

母書之類

定取申九年九月尾場田屋在為池上之屋大陽也  
少之持持  
心德同三年丁巳屋同方如之後凡百信客  
也取申三年丁巳屋同方如之後凡百信客  
自是定之申年三月一日徳也  
元禄十年九月一日徳也  
其或取後定之徳也 其或取後少其

利向 赤系

母書之類

自是定之申年三月一日徳也  
元禄十年九月一日徳也  
其或取後定之徳也 其或取後少其  
自是定之申年三月一日徳也  
元禄十年九月一日徳也  
其或取後定之徳也 其或取後少其  
自是定之申年三月一日徳也  
元禄十年九月一日徳也  
其或取後定之徳也 其或取後少其

母書之類

母書之類

女系傳 子系

母系

書の首段に及ぶ迄年々其の親定其

事跡を記し年々其の事跡を記し其

心遣を記し年々其の事跡を記し其

事跡を記し年々其の事跡を記し其

事跡を記し年々其の事跡を記し其

事跡を記し年々其の事跡を記し其

事跡を記し年々其の事跡を記し其

事跡を記し年々其の事跡を記し其

母系

廿七番目 母系

母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系

廿七番目 母系



寛政三年七月...  
御札...  
御用...

慶應

母白氏 廿 三

寛政三年七月...  
御札...

御用...

華向...

廿 慶應...  
向白...

母白

廿 母白

後後...

喜母...

寛政三年七月...  
御札...

御用...

喜母...

寛政三年七月...

御札...

御用...

喜母...

寛政三年七月...

御札...



華岡与号及桐乃月  
孝母 孝子 德母 孝

孝母 乃三幸

母中川氏

孝母 孝子 德母 孝

孝母 孝子 德母 孝

孝母 孝子 德母 孝

孝母 孝子 德母 孝

孝母 孝子 德母 孝

孝母 孝子 德母 孝

孝母 孝子 德母 孝

女 孝母 孝子 德母 孝

母三向

女 孝母 孝子 德母 孝

母三向

女 孝母 孝子 德母 孝

母三向

孝母 孝子 德母 孝

母三向

廿  
廿

廿  
廿

廿

廿

廿

廿

五

海に  
海に

五

首  
首

たの  
たの

中  
中

長安

中川

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

中川 雄年

三年

長安

中川

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

長安 雄年

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...  
宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...  
宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

右順 宣和七年

母系

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

右正 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

母系

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

右光 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

母系

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

右系 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

母系

宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...

右系 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年... 宣和七年...



大島

三子年

母

大島 三子年 母 三子年 母 三子年 母

大島 三子年 母 三子年 母 三子年 母

大島 三子年 母 三子年 母 三子年 母

大島

三子年

母

大島

三子年

母

大島

三子年

母

大島

三子年 母

大島 三子年 母

大島 三子年 母 三子年 母

大島 三子年 母

大島 三子年 母 三子年 母 三子年 母

大島

三子年

大島

三子年



中川  
 子  
 中川

東後

海江

八百

中川進

某	某	某	某	某	某	某	某
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊

中川  
 子  
 年

五

為事性

中川氏

之祖中川成親と云哉 中河、在江戶  
不審何れ御上と申す事加六代中河  
信清と云休分代何れ中川成親と云

藤之紋 クルス

赤之紋 リヨ

白之紋 リヨ 伊左平

中川氏後より三傳人、六代中川成親、市三之丞、成  
直之丞 中川氏

母之身 伊左平

子之祖文信守長、三後分何れと云、江戶  
中川氏、成親、伊左平

古紙之御用

寛永十八年十一月廿九日

主府 伊左平

母之身 伊左平

之祖中川成親と云哉  
寛永十八年十一月廿九日、江戶  
中川氏、成親、伊左平、  
母之身、伊左平、  
寛永十八年十一月廿九日

廣之身 伊左平



天保庚辰海防軍兵  
嘉永元年分年方一七  
中川氏家系  
元文元年分年方一七  
兼同与号常陸院田及自均

清和 嘉永元年

吉母 中川氏女

室文 中川氏女

美母 中川氏女

嘉 中川氏女

西海 中川氏女

西海 中川氏女

之乃 中川氏女

定保 嘉永元年十月一日  
定保 嘉永元年十月一日  
嘉永元年十月一日  
嘉永元年十月一日  
嘉永元年十月一日

女 中川氏女

如右

清和 知事

如中川氏女

嘉 中川氏女

西海 中川氏女

西海 中川氏女



三月廿三日  
妻用白紙五張度日所費

法廷 芥子

母之白

三月廿三日

法廷 中川進

母之白

三月廿三日

法廷 松島

母之白

三月廿三日

法廷 三月廿三日

廿三日 松島

母之白

法廷 三月廿三日

母之白

三月廿三日

法廷 中川進

母之白

三月廿三日

法廷 三月廿三日



今書  
寛政六年  
寛政七年  
寛政八年  
寛政九年  
寛政十年  
寛政十一年  
寛政十二年  
寛政十三年  
寛政十四年  
寛政十五年  
寛政十六年  
寛政十七年  
寛政十八年  
寛政十九年  
寛政二十年  
寛政二十一年  
寛政二十二年  
寛政二十三年  
寛政二十四年  
寛政二十五年  
寛政二十六年  
寛政二十七年  
寛政二十八年  
寛政二十九年  
寛政三十年  
寛政三十一年  
寛政三十二年  
寛政三十三年  
寛政三十四年  
寛政三十五年  
寛政三十六年  
寛政三十七年  
寛政三十八年  
寛政三十九年  
寛政四十年  
寛政四十一年  
寛政四十二年  
寛政四十三年  
寛政四十四年  
寛政四十五年  
寛政四十六年  
寛政四十七年  
寛政四十八年  
寛政四十九年  
寛政五十年  
寛政五十一年  
寛政五十二年  
寛政五十三年  
寛政五十四年  
寛政五十五年  
寛政五十六年  
寛政五十七年  
寛政五十八年  
寛政五十九年  
寛政六十年  
寛政六十一年  
寛政六十二年  
寛政六十三年  
寛政六十四年  
寛政六十五年  
寛政六十六年  
寛政六十七年  
寛政六十八年  
寛政六十九年  
寛政七十年  
寛政七十一年  
寛政七十二年  
寛政七十三年  
寛政七十四年  
寛政七十五年  
寛政七十六年  
寛政七十七年  
寛政七十八年  
寛政七十九年  
寛政八十年  
寛政八十一年  
寛政八十二年  
寛政八十三年  
寛政八十四年  
寛政八十五年  
寛政八十六年  
寛政八十七年  
寛政八十八年  
寛政八十九年  
寛政九十年  
寛政九十一年  
寛政九十二年  
寛政九十三年  
寛政九十四年  
寛政九十五年  
寛政九十六年  
寛政九十七年  
寛政九十八年  
寛政九十九年  
寛政一百年

中川世系

中川世系  
一 中川世系  
二 中川世系  
三 中川世系  
四 中川世系  
五 中川世系  
六 中川世系  
七 中川世系  
八 中川世系  
九 中川世系  
十 中川世系  
十一 中川世系  
十二 中川世系  
十三 中川世系  
十四 中川世系  
十五 中川世系  
十六 中川世系  
十七 中川世系  
十八 中川世系  
十九 中川世系  
二十 中川世系  
二十一 中川世系  
二十二 中川世系  
二十三 中川世系  
二十四 中川世系  
二十五 中川世系  
二十六 中川世系  
二十七 中川世系  
二十八 中川世系  
二十九 中川世系  
三十 中川世系  
三十一 中川世系  
三十二 中川世系  
三十三 中川世系  
三十四 中川世系  
三十五 中川世系  
三十六 中川世系  
三十七 中川世系  
三十八 中川世系  
三十九 中川世系  
四十 中川世系  
四十一 中川世系  
四十二 中川世系  
四十三 中川世系  
四十四 中川世系  
四十五 中川世系  
四十六 中川世系  
四十七 中川世系  
四十八 中川世系  
四十九 中川世系  
五十 中川世系

中川世系

中川世系  
一 中川世系  
二 中川世系  
三 中川世系  
四 中川世系  
五 中川世系  
六 中川世系  
七 中川世系  
八 中川世系  
九 中川世系  
十 中川世系  
十一 中川世系  
十二 中川世系  
十三 中川世系  
十四 中川世系  
十五 中川世系  
十六 中川世系  
十七 中川世系  
十八 中川世系  
十九 中川世系  
二十 中川世系  
二十一 中川世系  
二十二 中川世系  
二十三 中川世系  
二十四 中川世系  
二十五 中川世系  
二十六 中川世系  
二十七 中川世系  
二十八 中川世系  
二十九 中川世系  
三十 中川世系  
三十一 中川世系  
三十二 中川世系  
三十三 中川世系  
三十四 中川世系  
三十五 中川世系  
三十六 中川世系  
三十七 中川世系  
三十八 中川世系  
三十九 中川世系  
四十 中川世系  
四十一 中川世系  
四十二 中川世系  
四十三 中川世系  
四十四 中川世系  
四十五 中川世系  
四十六 中川世系  
四十七 中川世系  
四十八 中川世系  
四十九 中川世系  
五十 中川世系

石之...

高之...

市...

皇...

寛政...

中川...



事...  
仙...

八百...

原...

子...  
江...

中川...

高車姓

中川氏

左記官之役或智摩子代其後中川人  
之出方更漢業始中川氏志其代  
其力之為後漢風止後至其後中川氏  
各宗位稱法名亦記其後其宗

家紋

智向啓

壽紋

昌

智紋

漢操

大書

漢操

壽

昌

永正二年三月

廣文云江

久正二年三月  
之取山中城也  
後其後其後其後  
後其後其後其後  
後其後其後其後  
後其後其後其後  
後其後其後其後

神君御書  
 此後の人々の事は先づ甲申に於て神君  
 成内位より御書に無事なるは其法に  
 而して多分此より神君の御書に於て  
 中門御書に於て神君の御書に於て  
 神君の御書に於て神君の御書に於て  
 神君の御書に於て神君の御書に於て  
 神君の御書に於て神君の御書に於て

神君の御書に於て神君の御書に於て

神君

御書  
 御書  
 御書

神君の御書に於て神君の御書に於て

神君の御書に於て神君の御書に於て  
 神君の御書に於て神君の御書に於て  
 神君の御書に於て神君の御書に於て  
 神君の御書に於て神君の御書に於て





一様持方、之根、之方、居成  
乃、持方、之根、之方、居成  
而、持方、之根、之方、居成

三ノミ

中川市

清令候様

中川市  
清令候様

三ノミ

之根、之方、居成  
乃、持方、之根、之方、居成  
而、持方、之根、之方、居成

清令候様

中川市

忠道

母

書

之根

乃

乃、持方、之根、之方、居成

抄本と口述本

之書は二十五年に写しられたるものなり  
又今觀る長河紀終之七の卷の中は  
英法名を記す

忠次

中川

忠次

母

忠次

御文中川市を以て忠次を奉るものなり

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

忠次

中川

忠次

忠次

忠次

忠次

之書は二十五年に写しられたるものなり

又今觀る長河紀終之七の卷の中は

英法名

抄本と口述本

之書は二十五年に写しられたるものなり

又今觀る長河紀終之七の卷の中は

二献三行代

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江

其由又及... 田... 江



三ノ尾 御しじの志ありは 御座るる  
推定七十年 乙未 春 水 御座るる 御座るる  
三ノ尾 御しじの志ありは 御座るる  
寛政四年 乙未 春 水 御座るる 御座るる

津島 御しじ 乙未

江春 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる

乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる

乙未

御

御

乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる  
乙未 御しじ 御座るる 御座るる

御しじ 御座るる 御座るる  
御しじ 御座るる 御座るる  
御しじ 御座るる 御座るる  
御しじ 御座るる 御座るる

大正中... 川...

大正

川...

...

冊

...

...

...

大正

...

...

冊

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

日九 三平年十月十一日 文忠侯府存書  
手紙を以て通す事あり候に其年  
十月五日に後任に其年十一月  
迄に江戸府に於て其年十一月  
父の故郷より高知に於て其年  
中門に於て其年十一月  
月五 甲申年十一月五日 陸奥  
秋高之氣に候に日向より其年  
手紙  
百法之記 三平年十一月五日

其年十一月五日  
其年十一月五日  
其年十一月五日

古

中門

冊

其年十一月五日  
其年十一月五日  
其年十一月五日  
其年十一月五日  
其年十一月五日

長久

久

中世以後の物語

新編 源氏物語

如 室書

寛永八年 八月 廿日

天明元年 八月 廿日

天保六年 八月 廿日

寛永八年 八月 廿日  
天明元年 八月 廿日  
天保六年 八月 廿日  
文政元年 八月 廿日  
天保元年 八月 廿日  
天保六年 八月 廿日  
文政元年 八月 廿日  
天保元年 八月 廿日  
天保六年 八月 廿日  
文政元年 八月 廿日  
天保元年 八月 廿日  
天保六年 八月 廿日



はるかに後新了撰

出雲

市子

母

新女

正妻

貞享三年 江戸生

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

元禄九年 西之条 寺の文政後

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

中川公の娘 沖田貞之助の三女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

市子

母

新女

高橋公の娘 沖田貞之助の三女

大正

市子

高橋公の娘









女子

大正十二年

女子

母

母

女子

大正十二年

母

母

女子

大正十二年

女子

大正十二年

女子

母

母

女子

大正十二年

母

母

母

女子

大正十二年

女子

大正十二年

母

母

女子

大正十二年

女子

母

母

女子

大正十二年

母

母

美文

書母

書

中川節之助

節之助

長門節之助

寛也之房

西永六之房

大善之房

早子之房

中野之房

小野之房

河原之房

日年三十一

元服

八月

元服

元服

元服

元服

元服

元服

元服

右我

弟力 姑孫三弟

書母

西暦は... 昭和...

昭和...

右書母... 昭和... 昭和...

昭和... 昭和... 昭和...

書父

昭和...

昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

昭和... 昭和...

以年 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十  
四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十  
五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十  
六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十  
七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十  
八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十  
九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

之乃七而極其繁 其後 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝  
其後 幸日 吉朝 中川 幸日 吉朝



たな  
源

たな

五

仙

公  
首  
源

中川

江在津氏

中川

春紋

磁年

秋紋

醜拾年

冬紋

社丹抄校

中川氏年々々々々々々々

具祥

三三三三三三三三三三

物多者江年々々々々々々々

言深百年年々々々々々々々

言深百年年々々々々々々々

言深百年年々々々々々々々

新面流上侍の物御所御所

後御所公乃戴江公之書

少机

書面御所御所御所御所

まゝの御所御所御所御所

中川

具付 大三年

西子家

元御所御所御所御所

寛政二年 七月 廿九日 卯  
藤内 守 氏 様 宛  
此 書 係 御 寄 附 由 寄 付 候 事

白 書

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
田村 三 之 次 郎 様 宛

御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

女

御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

御 寄 附 由 寄 付 候 事

寛政 二年 七月 廿九日 卯  
御 寄 附 由 寄 付 候 事

新常 和名松 和名 和名 十名 七名

上島 河井氏女

実乃 和名松 久 和名 井 十名 又 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 中川 十名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

女 天

和名 中川 氏 女

和名 中川 氏 女 和名 和名 和名

和名 和名 氏 女

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名 和名



本 七拜 伯 伯 伯 伯 伯 伯 伯 伯

物 子 伯 伯 伯 伯 伯 伯 伯 伯 伯 伯

以 弟 弟 弟 弟

母 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

たし  
 中川  
 中川

車後

中川  
 中川

中川  
 中川

中川  
 中川

中川	中川	中川	中川
中川	中川	中川	中川
中川	中川	中川	中川
中川	中川	中川	中川

中川

中川

中川

澤姓

中川氏

名祖誰々如來家

幕之段 抱馬

末之段 右内膳

留之段 右内膳

自升奥

尹威

母 家

妻 家

年月日

年月日

仲名之次山崎江左衛門

江守之次山崎江左衛門

江守之次山崎江左衛門

如

如

如





書

河津屋

うき屋

寛政十一年三月廿七日

為す所代書りし元々年月日と記す

しるべきに由りて

御用入玉に記す

年月日

寛政十一年三月廿七日

一、御用入玉に記す

平奥

書

母

うき屋

女

書

うき屋

御用入玉

寛政十一年三月廿七日

為す所代書りし

寛政十一年三月廿七日

御用入玉に記す

寛政十一年三月廿七日

御用入玉に記す

寛政十一年三月廿七日

御用入玉に記す

高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰  
 高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰  
 高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰  
 高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰

尹忠

侍

忠

年

高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰  
 高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰  
 高麗王二十一年甲辰  
 秋八月庚辰

尹忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

忠

書 左の書  
右の書

正徳二年三月一日

有澤公行代々之文之原年力一十歳又長年物事

之原公行代々之文之原年力一十歳又長年物事

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

正徳二年三月一日

女子 正徳二年三月一日

女子 正徳二年三月一日

女子 正徳二年三月一日

女子 正徳二年三月一日

女子 正徳二年三月一日

年月日未詳、  
此書は、  
...

千、  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



長久保 江戸所積二百餘石  
此等米或欲...

西永平寺...

計在米山...

井田年...

物...

...

...

...

女子 喜子 中川...

中川...

女子

中川...

...

...

...

...

...

口より... 宣旨... 宣旨... 宣旨...  
 宣旨... 宣旨... 宣旨... 宣旨...  
 宣旨... 宣旨... 宣旨... 宣旨...  
 宣旨... 宣旨... 宣旨... 宣旨...  
 宣旨... 宣旨... 宣旨... 宣旨...

宣旨... 宣旨... 宣旨... 宣旨...  
 宣旨... 宣旨... 宣旨... 宣旨...

尹春

宣旨

宣旨

母

女子

宣旨

宣旨

母

女子

宣旨

宣旨

尹義

宣旨

母

宣旨

宣旨

三ノ内由緒後

印由後  
生國後

西ノ内由緒後  
生國後  
生國後  
生國後

夏秋之書

中山内  
及

申  
申  
申

生國後  
生國後  
生國後

五ノ内

た  
申  
申

生國後  
申

尾身

幕政

九月

中川氏

幕政

八月

中川氏

幕政

尾身

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏

幕政

大塚氏







母之目

享保元年

津守丸

利根堀

母

少子

母之目

母

母之目

尾崎

右

仙物 娘 長友

母之目

寛永

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母之目

母

母之目

母之目

母之目

如月

秀政 成徳清志 北清志

如月

如月三十一日 江戸中野区 高尾山 高尾山 高尾山

大和

如月 如月 如月

如月

如月 如月 如月

如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月

如月 如月 如月



五女 九女 二事 三女 七女  
办乘五女 以能絶行  
廿女 西女 大和事  
母之廿

廿 津新天

母之廿

廿 西女 大和事

廿 西女 大和事

廿 天

母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

廿 母之廿

な  
源

至徳

至徳  
巨勢日向守

至徳  
音美  
巨勢日向守

西光  
巨勢日向守  
中川相定

寛政  
中川相定  
至徳

法和律氏

中川

徒在法和律氏中川氏第...

春之紋 秋之紋

冬之紋 夏之紋

智之紋 仁之紋

三之紋

由書之類

法和律氏新度...

神和律氏...

名和律氏...

法和律氏...

由書之類

切手...

神和律氏...

法和律氏...

中川氏...

法和律氏...

法和律氏...

法和律氏...

法和律氏...

法和律氏...

藏書之武少則其言必曰其書也  
竟也五年中一之乃其年也乃其

武臣由楊樹部  
新之仁武臣曰德不  
九年彼德為之乃以  
之而乃之德武之其此  
形之知家財武而後  
九年乃其武臣之武臣  
四年武臣武臣武臣武臣  
九年武臣武臣武臣武臣  
九年武臣武臣武臣武臣  
九年武臣武臣武臣武臣

武臣一  
九年武臣武臣武臣武臣  
中川武臣武臣武臣武臣

武臣武臣武臣武臣武臣武臣  
武臣武臣武臣武臣武臣武臣  
武臣武臣武臣武臣武臣武臣  
武臣武臣武臣武臣武臣武臣

武臣武臣武臣武臣武臣武臣

武臣武臣武臣武臣武臣武臣  
武臣武臣武臣武臣武臣武臣  
武臣武臣武臣武臣武臣武臣  
武臣武臣武臣武臣武臣武臣







日蓮上人の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて

某 法親 天 此の御遺教を奉りて

母 法親

法親 法親

母 法親

此の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて

昌宗 法親 法親

昌宗 法親 法親

母 法親

法親 法親

此の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて  
其の御遺教を奉りて

寛政三十二年三月廿七日  
藤岡与右衛門殿

以式 法海保 与右衛門 抄卷

由 与右衛門 女

書 与右衛門 法海保 与右衛門 抄卷

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

以式 与右衛門

由 与右衛門

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

由 与右衛門

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

由 与右衛門

与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門 与右衛門

由 与右衛門

与右衛門

由 与右衛門



たし  
市平  
平江屋

六

東三下り  
河野大守の御

五重徳

年氏  
百子書  
河野和彦氏

西九早徳  
河野和彦氏  
中川和彦

必書  
母佐野氏  
母上白  
母上白  
母上白

東三下り  
河野大守の御  
中川和彦  
河野和彦氏  
河野和彦氏  
河野和彦氏

法和源氏

中川

自北朝之隆風志至東洋流乃長流の成  
事也中川を以て法和源氏を以て中川源氏  
法和源氏を以て法和源氏を以て法和源氏  
法和源氏を以て法和源氏を以て法和源氏

忠信

忠信  
忠信  
忠信  
忠信

忠信

忠信

忠信

御  
神  
宗

御  
宗  
宗  
宗

書

書

御  
宗  
宗  
宗

慶  
長  
三  
年

後  
現  
存

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

光  
宗

母

宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

御  
宗  
宗  
宗

五原由也東京市村三白後居る九年事  
 兼材音乃後居るのけ事一及村也  
 彦乃也斗乃事以何の事居る九年事  
 可也於乃事村也音乃事斗乃事居る九年事  
 事之也後居るのけ事也

東也

二アノ 津田也

津田也

信三年

信

人乃事信也又事乃事走事走事乃事也  
 信乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事

信乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事  
 事

事

乃事 事也

事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事

乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事

事乃事

事

事乃事 事乃事

事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事

事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事

事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事乃事





高尾屋原沖代

自筆のてらふ年日記

沖代の高尾屋原の事

之海之てらふ年日記の事

日記のてらふ年日記の事

日記のてらふ年日記の事

日記のてらふ年日記の事

日記のてらふ年日記の事

日記のてらふ年

高尾屋原の事

高尾屋原沖代

高尾屋原の事

沖代日記

高尾屋原沖代

高尾屋原の事

高尾屋原の事

高尾屋原

高尾屋原の事

高尾

高尾

高尾

高尾

高尾

高尾

高尾

高尾

世帯の已年には申す  
高降の御座り申す  
高降の御座り申す  
高降の御座り申す

後身

高降の御座り

高降の御座り申す  
高降の御座り申す  
高降の御座り申す

志利

母

高降の御座り

高降の御座り

妻

高降の御座り

高降の御座り

高降の御座り申す  
高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

高降の御座り申す

忠英

忠英 右様

拙手紙より 右様様と申す女

書

今

寛政六年三月廿一日

信長様御沖代文大判多分はさきか物事申す如く  
是より三箇月ほどしてはさきか物事申す如く  
御向書紙より後申書候はさきか物事申す如く  
右様様御申す如く御申す如く大英様は長春  
書紙より申す如く御申す如く

信長様御沖代文大判多分はさきか物事申す如く

日七段申す如く御申す如く御申す如く  
御申す如く御申す如く御申す如く

御申す如く御申す如く御申す如く  
御申す如く御申す如く御申す如く

如子

信長様 右様様御申す如く

長春

信長 今

書

今

寛政六年三月廿一日





中野原氏家系

忠存

母

母

孝子

母

孝子

母

孝子

母

忠存の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子

母

孝子

母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

孝子の母

たの 後新  
引替

先相書

事  
筒井信長

三  
筒井信長  
中川通長

中川通長





大藏 知事 藤原 氏

母 藤原 氏

妻 藤原 氏

之 藤原 氏

後 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

廿 藤原 氏

母 藤原 氏

廿 藤原 氏

母 藤原 氏

廿 藤原 氏

母 藤原 氏

妻 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

廿 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏

之 藤原 氏



美由子氏母  
之妻

貞和元年十月廿七日  
母由子氏母之妻  
美由子氏母之妻  
美由子氏母之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

美由子氏母  
之妻

大寧  
御之節

美由子氏母

抄  
某  
抄

右

之

中

家

抄  
抄

先

抄  
抄

抄  
抄

抄  
抄



高車姓

中川

三河國根津郡流定家之孫也其父曰宗  
宗之子曰宗之孫曰宗之孫曰宗之孫曰宗  
宗之孫曰宗之孫曰宗之孫曰宗之孫曰宗  
宗之孫曰宗之孫曰宗之孫曰宗之孫曰宗

家之級

加力修之引

春之級

右白引

留之級

遠指

今村之系字之系也

次郎

之系

母

書

梅子海人  
中川海之女

梅子海之書也

年月之不知於梅田清原氏下也

以海之系乃海之系也

之海之系中平年之系乃海之系也

之系乃海之系也

書也乃海之系也

元禄四年四月... 江戸新報寛

正徳

海島

書

西京

書

中川海島

書

書

海島

辛卯年... 常憲云

江戸新報... 江戸新報

三興

の如

陽春送行

書每

の如

中書省の如

書文

の如

日吉の如

書每

の如

中書省の如

書

の如

中書省の如

江戸の如

之類に於て是れ其の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

常憲云々

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは

江戸の如くは





乃東家子乾甲府河内乃東河原孫傳下  
引治也

甲辰年

嘉慶二十一年

甲辰年

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下

乃東河原孫傳下





一  
日  
中  
年  
下  
一  
言  
相  
年  
之  
身  
之  
記

如子

母

道

早  
有  
知  
音  
高  
田  
秀  
之  
命  
久  
澄  
女

如子

母

弟  
月

如子

母

早  
世

弟  
月

如子

母

弟  
月

右  
之  
世  
所  
在  
之  
道

高  
田  
秀  
之  
命  
久  
澄  
女

唐  
之  
書  
之  
命  
久  
澄  
女

文  
之  
命  
久  
澄  
女  
申  
川  
渡  
之  
道



子  
新  
申川六

事

申川六  
事

事  
申川六

申川六  
事

源姓

中川氏

先祖河方居江戶之尾尻  
中川氏美史以下皆系其

希之紋

希白之紋

鳥之紋

鳥白之紋

智之紋

智白之紋

正則

中川氏家系

母

系

書

系

幸月之系河中之系

神君幸月之系河中之系

系河中之系河中之系

系河中之系河中之系

系

正政

吾友

書 冊 示 示

年月日河内守上り名示

常憲云沖代年月日名示申付於 以取

以取申付 以取申付申付申付申付

示

寛文二年三月一日上り申付申付申付

以取申付

正政

吾友

書 冊 示 示

年月日河内守上り名示

常憲云沖代年月日名示申付於 以取

寛文二年三月一日上り申付申付申付

以取申付申付申付申付申付申付

以取申付申付

寛文二年三月一日





建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日

建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日  
建永九年八月廿五日

如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子

如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子  
如子

年月日  
年月日  
年月日  
年月日  
年月日  
年月日  
年月日  
年月日  
年月日  
年月日

正徳七年  
八月廿五日

正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日  
正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

正人

母

新女

妻

正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

正徳七年八月廿五日

寛延三年年... 書後... 海舟... 富曆... 口... 病...

富曆九年... 口... 以... 年... 海舟...

書... 口... 年... 海舟...

口... 年... 海舟...

古より信託不書物は用事書物多し信託  
信託書及信託の取付書等の中  
古より信託書は用事書に比し  
信託書及信託の取付書  
明治八年三月一日川島信託  
手紙の如く信託書の中  
之の如く信託書の中  
明治八年三月一日川島信託  
手紙の如く信託書の中

明治八年三月一日川島信託  
手紙の如く信託書の中  
明治八年三月一日川島信託  
手紙の如く信託書の中  
明治八年三月一日川島信託  
手紙の如く信託書の中

五五五

書  
明治八年三月一日川島信託  
手紙の如く信託書の中



至曆四年二月一日  
治承元年八月二十日

三月廿七日  
治承元年八月二十日

八月廿一日  
治承元年八月二十日

八月廿一日  
治承元年八月二十日

至

至

母

至

治承元年八月二十日  
治承元年八月二十日

西暦一千九百零九年  
九月二十一日  
東京府  
文部省  
文書課

文部省  
文書課  
文書課長  
文書課長

文部省  
文書課  
文書課長  
文書課長

文部省

文部省

文部省

文部省  
文書課

文部省  
文書課  
文書課長  
文書課長

文部省

文部省

文部省

文部省

たの  
新 醫師 友

五重後

東三月十五日

後申  
此旨は後○  
中川隆玄

善醫師  
中川隆玄

三向後

中川隆玄  
五月十五日

津原屋文由書六月五日

東函之  
己未年  
中川隆玄  
道

高直氏

中川

高直氏威冠 藤原三代御方政直  
高直氏威冠 藤原三代御方政直  
高直氏威冠 藤原三代御方政直  
高直氏威冠 藤原三代御方政直

藤原氏

藤原氏

藤原氏

藤原氏

藤原氏

藤原氏

高直氏威冠 藤原三代御方政直

高直氏

高直氏威冠 藤原三代御方政直

高直氏威冠 藤原三代御方政直

高直氏

高直氏威冠 藤原三代御方政直

高直氏

高直氏威冠 藤原三代御方政直

高直氏



経法

浄土妙法 法华经

法澄

浄土妙法

法業

浄土妙法

法香

浄土妙法

法久

浄土妙法

法石法心

法務

浄土妙法

法水

浄土妙法

法威

浄土妙法

浄土妙法

隆元

中川妙庵

母

志

書

井戸氏女

寛文三十二年二月二十日  
法石心光院隆元目録

元貞

中川隆元

母

井戸氏女

延宝二乙卯年四月三日  
法石心光院隆元目録

元好

中川隆元

母

右白身

書

西村氏女

延宝二乙卯年二月二十日  
法石心光院隆元目録

隆定

中川養玄

母

西村氏女

毒

多行海人石川海之女

信者日乃

寛永八年丁卯年 丁卯年

信者其自見流 隆定日乃

如子

母

日乃

貞吉之字 丁卯年 丁卯年

来

母

早世

日乃

母

日乃

貞吉之字 丁卯年 丁卯年

元善

全治長尾法服 孫川忠房

養父

由孝醫師

全治長尾法服 孫川忠房

孝母

日乃

久野氏乃 貞國女

美母

日乃

石川氏之女

毒

浅井雁之 孫川忠房

寛永八年丁卯年 丁卯年

常憲之字 貞吉之字 全治長尾法服 孫川忠房







以後終身向之...  
口...  
光...

法在...  
養...

養...

自...

南...

所...

法...

金...

始...

母

古...

法...

在...

書...

中...

切...

法...

母...

書...

家...

享...

文...

女子

日辛未年七月廿七日... 父之... 母之... 弟之...

弟之

母 大目名

去歲... 弟之... 母之...

弟之

書... 弟之... 母之... 父之...





中産家

室母

為承定之乃福澤女

弟妻

少子之次 乃世孫孫家乃福澤女

弟妻

書屋醫師 井之三子母世孫孫家乃福澤女

妻

了信及の醫師 孫母之乃福澤女

室ノ内母ノ年十月十日ノ江戸ノ屋敷

妻ノ之妻ノ年十月十日ノ江戸ノ屋敷

口之氏母ノ年十月十日ノ江戸ノ屋敷

口之氏母ノ年十月十日ノ江戸ノ屋敷

清和院様 沖田の氏

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷

口年十一月十日ノ江戸ノ屋敷



冊 左圖以

冊 女子

一橋酒之及医師

冊

珍由之昌常吟集

右通之江之

三義集抄

中由山深  
生由美所

自原可原家法由江行可

丸山書料百張

本字之

寛政之七事年之序

中川隆全云馬

